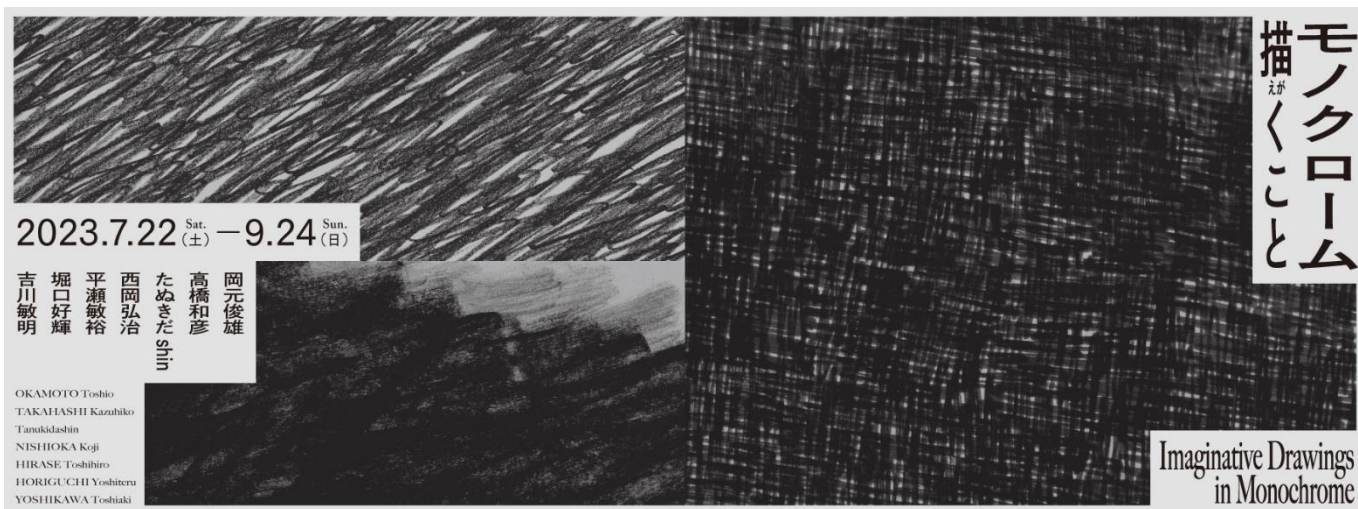


令和 5 年 6 月 22 日
公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
東京都渋谷公園通りギャラリー

7 名の作家が魅せる 限られた色の世界に広がる、限りのない表現

「モノクローム ^{えが}描くこと」開催のお知らせ

会期：2023 年 7 月 22 日（土） - 9 月 24 日（日） 会場：東京都渋谷公園通りギャラリー



アートディレクション・デザイン：置田陽介 / attitude inc.

東京都渋谷公園通りギャラリーは、2023 年 7 月 22 日（土）から「モノクローム ^{えが}描くこと」を開催いたします。

展覧会概要

本展は、モノクロームの限られた色の中で描かれる独自の世界観に注目し、**描くこと**の本質を探ることをテーマに、絵画や立体など 67 点の作品を紹介します。

出展作家は、**岡元俊雄、高橋和彦、たぬきだ shin、西岡弘治、平瀬敏裕、堀口好輝、吉川敏明**の 7 名です。

道具をつかい、線や面で形を描くことも、心の中にイメージを思い描くことも、どちらも「えがく」と言うように、描くという言葉には、広い意味があります。一方、作品の色を白黒のモノクロームに限ってみると、作家ひとりひとりが描き出す独自の世界観がより際立って見えてきます。本展では、木炭やペン、ニードルなどの画材や道具を用いて対象を描き出したり、針金など描画には用いられることの少ない素材で形づくられたりする作品や、記された言葉や記号によってイメージが立ち現れてくる作品を展示します。

条件を絞ることで強いコントラストをもって見えてくる作品の新たな魅力を、ぜひ展示室でご覧ください。

このリリースにかかるお問い合わせ／取材申し込み

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 浅野、岡田、加藤

（公財）東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 文化共生課

Tel : 03-5422-3151

Fax : 03-3464-5241

E-mail : inclusion@mot-art.jp

展覧会の見どころ

①白黒のモノクロームが描き出す豊かな創造の世界

本展では、白黒のモノクロームに視点を絞り、独創的な表現などによる多数の作品を通して、国内外で多くの発表歴をもつ作家から、独自に創作を続けてきた近年の作家まで、様々なつくり手による豊かな創造の世界をご紹介します。

②多種多様な画材や素材による、独自の表現

ご紹介するのは、オーソドックスな描画材である木炭、ペン、墨汁のほか、紙の版で刷られる版画や針金の立体など、様々な画材や素材を用いて独自の表現をおこなう7名の作家によるモノクロームの作品です。

③内なるイマジネーションに溢れた想像の世界

作家の記憶や日常の風景、写真や雑誌の切り抜き、楽譜など、身近なモチーフが、新たなイメージで描き出された67点の作品を通して、モノクロームの限られた色の世界に広がる、限りのない表現の世界をご覧ください。

開催概要

- 展覧会名：モノクローム ^{えが}描くこと
会期：2023年7月22日（土） - 9月24日（日）
開館時間：11:00 - 19:00
休館日：月曜日（9月18日を除く）、9月19日（火）
会場：東京都渋谷公園通りギャラリー 展示室1、2
入場料：無料
出展作家：岡元俊雄、高橋和彦、たぬきだ shin、西岡弘治、
平瀬敏裕、堀口好輝、吉川敏明

展覧会ウェブサイト：<https://inclusion-art.jp/s/monochrome>

主催：（公財）東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 東京都渋谷公園通りギャラリー

問い合わせ：inclusion@mot-art.jp

*開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。



アートディレクション・デザイン：置田陽介 / attitude inc.

作家プロフィール



岡元俊雄《女の人》2014年
紙・墨汁 108.7×76.7cm
やまなみ工房蔵 画像提供：やまなみ工房

岡元俊雄 (OKAMOTO Toshio) 1978-

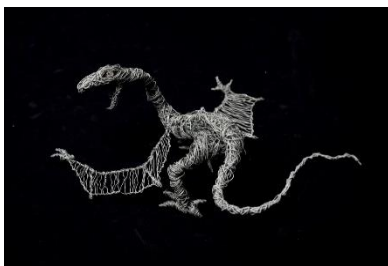
滋賀県生まれ。1996年から、やまなみ工房（滋賀県）に所属。岡元は、墨汁と先を尖らせた1本の割り箸を自在に操り、写真や実際に見たモチーフを新たなイメージに変換して写しとる。トラックなら通り過ぎる視界の変化に忠実に、正面、側面、背面のディテールなどを細かく捉えながら展開図のように描き、人物なら墨汁を飛び散らせながら躍動感のある線を重ねて姿を浮かび上がらせる。主な出展歴に、2017-2018年「日本のアール・ブリュット KOMOREBI展」フランス国立現代芸術センター リュー・ユニック（フランス）などがある。



高橋和彦《盛岡哀愁》2012年
ペン・紙 78.9×109.1cm
社会福祉法人 自立更生会 盛岡杉生園蔵
撮影：ただ（ゆかい）

高橋和彦 (TAKAHASHI Kazuhiko) 1941-2018

岩手県生まれ。高橋は、盛岡杉生園（岩手県）の創作クラブをきっかけに、58歳の時に初めて本格的に絵を描いた。以降、熱心に創作を続け、高い密度で描き込まれたペン画が300点以上残されている。本や写真、実際に見た風景などの記憶を元に、様々なエピソードとモチーフを構成する絵画世界は、見る者の記憶の中にある、街のざわめきや人々の生活の気配を色あざやかに喚起する。主な出展歴に、2010-2011年「アール・ブリュット・ジャポネ」パリ市立アル・サン・ピエール美術館（フランス）などがある。



たぬきだ shin《蛇龍》制作年不詳
針金 13×23×26cm
作家蔵 撮影：ただ（ゆかい）

たぬきだ shin (Tanukidashin) 1999-

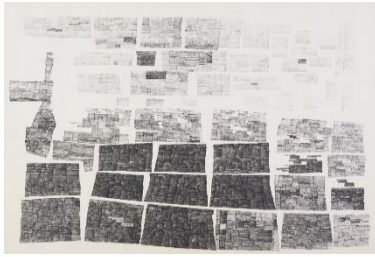
兵庫県生まれ、兵庫県在住。中学3年生の時からはじめたという針金を素材に造形される立体は、独自の手法で、まるで線画のスケッチのように船や飛行機、生き物などの多様なモチーフを三次元空間へ写実的に描き出す。作品のモチーフは、本などの資料や、作家の暮らす港町で見る船などをヒントに創作され、大きな工業物から、ファンタジー小説にあたかも登場するかのようなキャラクターに至るまで、全てオリジナルのイメージだ。主な出展歴に、2014年「第四回『こころのアート展』in しあわせの村 2014」（兵庫県）などがある。



西岡弘治《楽譜 CHOPIN》2009年
インク・紙 65.6×34.3cm
アトリエコーナス蔵
画像提供：特定非営利活動法人コーナス

西岡弘治 (NISHIOKA Koji) 1970-

大阪府生まれ。2005年に開設したアトリエコーナス（大阪府）の初期メンバー。施設にピアノと楽譜が寄贈されたことをきっかけに、線が独特の揺らぎをもって近づいたり離れたり、描き重ねられて太くなったりする情感豊かな楽譜の模写を始めた。子どもの頃に親しんだクラシックやアニメソングの記憶を反芻するかのようになり、お気に入りの楽譜を描き続けている。主な出展歴に、2015年「Art Brut Live, abcd collection」DOX Centre for Contemporary Art（チェコ共和国）がある他、abcd財団（フランス）などに作品が収蔵されている。



平瀬敏裕《敏裕の世界 2009》2009年
ペン・紙 32×46.8cm
作家蔵 撮影：ただ（ゆかい）

平瀬敏裕 (HIRASE Toshihiro) 1971 -

北海道生まれ。あかとき学園（北海道）に在籍する平瀬の創作は、2001年にノートの片隅で突然はじまったという。作品は、一見すると色面が並ぶ抽象画のように見えるが、色面は無数の×印が集まったユニットだ。×印は、ペンのインクがなくなるまで描き連ねられるため、インクの擦れが自然と濃淡を生みだし、画面の中で異なるニュアンスをもって構成され、行為の集積によって描き出された偶然と必然のかたちが交錯する表現となる。主な出展歴に、2010-2011年「アール・ブリュット・ジャポネ」パリ市立アル・サン・ピエール美術館（フランス）がある。



堀口好輝《ビッグ・ベン》2022年
刷：アトリエやっほう!!
インク・紙／ドライポイント 37.3×28.5cm
京都市ふしみ学園 アトリエやっほう!!蔵
撮影：ただ（ゆかい）

堀口好輝 (HORIGUCHI Yoshiteru) 1978 -

京都府生まれ。京都市ふしみ学園「アトリエやっほう!!」（京都府）で制作する。ふくよかで愛らしいモチーフが浮かび上がる堀口の版画は、版となるプレートを直接削って描くドライポイントの技法でつくられる。鉛筆で描いた下絵の線を、ニードルで削るようにしてなぞったり、手で剥がしたりして描画した紙のプレートを原版に、刷りの工程を経て作品は完成する。ボール紙の真っ白な版に刻まれた淡い線や面は、インクの滲みによって可視化される。主な出展歴に、2020年「ひぐちよしまさ ほりぐちよしてる 展」art space co-jin（京都府）がある。



吉川敏明《ひょうたん》1981
木炭・木炭紙 49.7×64.9cm
みずのき美術館蔵 画像提供：みずのき美術館

吉川敏明 (YOSHIKAWA Toshiaki) 1947 - 1987

京都府生まれ。1966年に入所した障害者支援施設みずのき（京都府）において、日本画家の西垣^{ちゅういち}壽一（1912-2000）の指導する絵画教室で制作した。吉川は、モチーフを黒々と塗り込めた大胆な構図の木炭デッサンで知られる。修正や手直しをせずに描いていたというが、黒いモチーフと余白の間に美しいグラデーションのある、見事に安定した画面を構成している。繰り返し描かれたタマネギのシリーズからは、豊かなバリエーションを比較できる。本展に出展の《ひょうたん》は、1993年「パラレル・ヴィジョン 20世紀美術とアウトサイダー・アート」展（世田谷美術館、東京都）と同時開催された「日本のアウトサイダー・アート」展へ出展されたうちの1点。

東京都渋谷公園通りギャラリーとは

東京都渋谷公園通りギャラリーは、アートを通してダイバーシティの理解促進や包容力のある共生社会の実現に寄与するために、アール・ブリュット等をはじめとするさまざまな作品の展示等により、一人ひとりの多様な創造性や新たな価値観に人々が触れる機会を創出します。

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-19-8 渋谷区立勤労福祉会館 1F

開館時間：11:00 - 19:00

休館日：月曜日（祝休日の場合は開館、翌平日休館）、年末年始、展示替え期間

電話：03-5422-3151 FAX：03-3464-5241 メール：inclusion@mot-art.jp



東京都渋谷公園通りギャラリー外観
撮影：柿島達郎

関連イベント

展示室を会場にしたイベントを予定しております。詳細は当ギャラリーウェブサイト (<https://inclusion-art.jp>) をご覧ください。

■ ドローイング+トーク「おんがくがみえる、きこえる絵とその物語」 ※手話通訳付き 出展作家・西岡弘治さんの作品の魅力を、ドローイングの公開制作とトークでご紹介します。

日時：2023年7月28日（金） 〈公開制作〉18:30-19:00 〈トーク〉19:15-20:00

会場：東京都渋谷公園通りギャラリー 展示室1、2

〈公開制作〉西岡弘治（出展作家）

〈トーク〉白岩高子（特定非営利活法人コーナス 代表理事）

■ 鑑賞会「みると話（わ）」 全3回 ※9月13日（水）のみ手話通訳付き

展示室で作品を囲み、会話を楽しみながらグループで鑑賞します。

① 2023年8月28日（月） 14:00-16:00 ※8月28日は休館日の開催です

② 2023年9月12日（火） 18:30-20:30

③ 2023年9月13日（水） 18:30-20:30

ナビゲーター：白鳥建二（全盲の美術鑑賞者/写真家）

会場：東京都渋谷公園通りギャラリー 展示室1、2

定員：各回5名（事前申し込み・抽選制） 申込受付期間：7月25日（火）-30日（日）

■ アーティスト・トーク 出演：たぬきだ shin（出展作家） ※手話通訳付き

本展で立体作品を出展する、たぬきだ shinさんをゲストに迎えお話をお聞きます。

日時：2023年9月8日（金） 18:30-19:00

会場：東京都渋谷公園通りギャラリー 展示室1、2

同時開催（交流プログラム）

1. パフォーマンス・シリーズ RAW03 関連イベント アーカイブ展示

開催日：2023年7月22日（土）-30日（日） 入場無料

<https://inclusion-art.jp/s/raw03archive>

2. パフォーマンス・シリーズ RAW03 関連イベント 「なやみの種」上映+トーク

開催日：2023年7月29日（土）、7月30日（日） 参加無料

<https://inclusion-art.jp/s/raw03jouei> ※申込受付：7月1日（土）開始（先着順・定員各日20名）

3. Kids meet 03 「あうたびにラブレター」

開催日：2023年8月5日（土）、8月6日（日）※2日連続開催ワークショップ 参加無料

<https://inclusion-art.jp/s/kids03> ※申込受付期間：7月1日（土）-7月22日（土）（応募多数の場合は抽選）

4. 〈いっしょにアトリエ〉アノニマス・ポートレート——レシピでつくるモンタージュ!!

開催日：2023年8月20日（日）-9月24日（日） 参加無料

[取材・画像使用申込書]

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 行

E-mail : inclusion@mot-art.jp Fax : 03-3464-5241

取材および広報用画像について

本展覧会の取材を希望される場合は、本紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはEメールにてお申し込みください。また、本展覧会の広報用素材として9点の画像をご用意しております。希望されます場合は、希望画像をご記入の上、お申し込みください。

取材希望

画像使用希望

取材希望日時：	
使用希望画像：	
貴社名：	
貴媒体名：	
種別：	TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他
発行・放送予定日：	
ご担当者名：	
Eメールアドレス：	
ご住所：	(〒)
お電話番号：	
FAX：	
その他：	

なお、取材および写真使用に際しましては、以下のことをお願いしております。

- ・ 掲載画像に添えて、当該作品のクレジット（作家名・作品名・制作年・所蔵・コピーライト）を明記してください。
- ・ 掲載画像のトリミング、文字載せはお控えください。
- ・ 記事掲載・放送日が決まりましたら、事前にご連絡ください。併せて、掲載内容もお知らせいただけますと幸いです。
- ・ 掲載・放送後、掲載誌（紙）PDF、DVD、CD、URL 等のご恵贈をお願いいたします。

広報用画像一覧 キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ず表記してください。

- ① 岡元俊雄《女の人》2014年、やまなみ工房蔵、画像提供：やまなみ工房
- ② 高橋和彦《盛岡哀愁》2012年、社会福祉法人 自立更生会 盛岡杉生園蔵、撮影：ただ（ゆかい）
- ③ たぬきだ shin《蛇龍》制作年不詳、作家蔵、撮影：ただ（ゆかい）
- ④ 西岡弘治《楽譜 CHOPIN》2009年、アトリエコーナス蔵、画像提供：特定非営利活動法人コーナス
- ⑤ 平瀬敏裕《敏裕の世界2009》2009年、作家蔵、撮影：ただ（ゆかい）
- ⑥ 堀口好輝《ビッグ・ベン》2022年、刷：アトリエやっほう!!、京都市ふしみ学園 アトリエやっほう!!蔵、撮影：ただ（ゆかい） ※「刷：アトリエやっほう!!」は省略可
- ⑦ 吉川敏明《ひょうたん》1981年、みずのき美術館蔵、画像提供：みずのき美術館
- ⑧ (参考)「モノクローム 描くこと」展覧会チラシ、アートディレクション・デザイン：置田陽介／attitude inc.
- ⑨ (参考)「モノクローム 描くこと」展覧会メイン・ビジュアル、アートディレクション・デザイン：置田陽介／attitude inc.

